

News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第39号

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています) 住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15 TEL/06-6879-5021

患者さんとのパートナーシップ

阪大病院の基本方針の第一番に「患者本位の安心・安全な全人的医療の提供」が掲げられています。これに基づいて、医師や看護師らは診療、ケアにあたりていきます。患者さんが医療従事者に対して、疑問点や不安に思うことを気軽に質問でき、患者さんと医療従事者がパートナーとして、医療や医療安全に関わっていきけるような、安心、安全な医療を実現することを目指しています。



患者さんへの「いろはうた」の説明シミュレーションをするスタッフ



「いろはうた」の一例

「いろはうた」の活用

しかし実際には、患者さんが医療従事者に対して、疑問点や不安に思うことを気軽に質問でき、患者さんと医療従事者がパートナーとして、医療や医療安全に関わっていきけるような、安心、安全な医療を実現することを目指しています。

これは、「みんなのいろはうた」患者さん

「いろはうた」の活用... 患者さんへの説明シミュレーションをするスタッフ

先進的食事療法を導入 4部門連携で治療効果向上

栄養マネジメント部

栄養マネジメント部は、栄養サポート部門、栄養代謝制御部門、栄養給食管理部門と栄養管理室の4部門から構成されています。各部門とも医師、管理栄養士、看護師や薬剤師ら専門医療スタッフが中心になって活動しています。

病院内に高い満足度... 病院食に関する満足度は、患者さんにとって重要な要素です。栄養マネジメント部は、病院内の食事環境を向上させるために、様々な取り組みを行っています。

糖尿病食も工夫... 糖尿病食は、血糖値をコントロールするために重要な役割を果たしています。栄養マネジメント部は、患者さんの生活の質を向上させるために、糖尿病食の工夫を行っています。

栄養管理の大切さを... 栄養管理は、患者さんの健康を維持するために不可欠な要素です。栄養マネジメント部は、患者さんだけでなく、医師や看護師にも栄養管理の大切さを伝えるために、様々な取り組みを行っています。



コミュニケーション力の向上へ 多彩な取り組み

患者さん中心の医療を実現するために阪大病院の中央クオリティマネジメント部では、患者さんと医療従事者とのコミュニケーションを円滑にし、安心して治療に専念していただく試みを始めています。また、医師、看護師やその他の医療従事者間のチームワークをよりよくし、より安全な医療が行えるように、新たな教材を開発し、職員の教育にも力を入れています。

中央クオリティマネジメント部

と医療者のパートナーシップ」として、6月から阪大病院全体で取り組まれています。具体的には、入院の際に患者さんに「いろはうた」ファイルをお渡しし、病棟で担当の看護師が内容についての説明を行っています。例えば、「いろはうた」の「に」では「二度三度 たずねること遠慮なく 治療の主治は あなたです」と、医師や看護師に治療に関して疑問に思うことは何度でも遠慮せず、たずねてくださいと明記されています。また、「ほ」では「ホッと不安な気持ち」と、家族や友人だけでなく、身近な医師や看護師、薬剤師や検査技師、理学療法士など気軽に話せる医療従事者に不安を打ち明けて、「患者さんが不安な気持ち」を一人抱え込まないようアドバイスしています。

チームワーク教育... 医療従事者に対する医療安全の教育についても、新たなチャレンジを行っています。医療ミスや医療事故がなぜ起こるのかを分析すると、もっとも大きな原因が医師、看護師、検査技師や臨床工学技士、薬剤師など治療に関わる医療従事者間のコミュニケーションやチームワークがうまくいっていないことであることが明らかになっています。



処置前に手順や不測の事態への対応について打ち合わせをするための教材

コミュニケーションが円滑に行われていると、想定外の事態が起こったときに、うまく対処できることが知られています。そこで、チームワークやコミュニケーションを強化し、医療チームの力を高めるような教材開発に着手しました。陥りやすい「勘違い」や「思い込み」などのエラーを理解し、コミュニケーションやリーダーシップなど、チームとして働く際に必要な技術(フンテクニカルスキル)と呼ばれるスキルを題材とした楽しく学べるアニメや動画の教材等を作成し、院内で講習やシミュレーション教育を開催しています。

病院内に高い満足度... 病院食に関する満足度は、患者さんにとって重要な要素です。栄養マネジメント部は、病院内の食事環境を向上させるために、様々な取り組みを行っています。

糖尿病食も工夫... 糖尿病食は、血糖値をコントロールするために重要な役割を果たしています。栄養マネジメント部は、患者さんの生活の質を向上させるために、糖尿病食の工夫を行っています。

栄養管理の大切さを... 栄養管理は、患者さんの健康を維持するために不可欠な要素です。栄養マネジメント部は、患者さんだけでなく、医師や看護師にも栄養管理の大切さを伝えるために、様々な取り組みを行っています。



病院食を試食する医学部学生



病院レストランで「豪華」な糖尿病食を食べる患者会の人たちと医師

電子カルテ移行から6カ月 医療チーム間の情報共有スムーズに

今年1月2日から電子カルテに移行し6カ月がたちました。移行当初、看護業務の変化が著しく心配していましたが、それぞれの業務のやり方が確立してきました。



電子カルテに移行し大きな変化を感じるの、看護師がカートにパソコンを載せて持ち歩いている姿です。看護師はベッドサイドで患者さんのカルテを確認しながら測定した体温や血圧などの情報を、すぐに入力することができます=写真。リアルタイムで情報を入力することで、医師やその他の医療従事者は担当看護師を探さなくても、電子カルテを見るだけで確認ができ、医療チーム間の情報共有がよりスムーズになりました。これらはより安全な医療につながると考えられます。

夏の風情満喫 七夕コンサート



7月7日に七夕コンサートが開催されました。今年は趣向を変えて司会の看護師は浴衣姿で登場。第1部は障害に負けず、ピアノ大好きの一心得障害者バンクーバーピアノフェスティバルに出場された鈴木凜太郎君。また第2部は、大阪大学お祭りダンスサークル。法被姿もりりしく「よさこい」音頭で夏祭りの雰囲気病院に運んでくれ、大いに盛り上げてくれました。患者のみなさんは手拍子を取り、暑い夏の一時を楽しんでいただきました。

一般市民対象に阪大病院見学会 お気軽にご参加を

大阪大学病院では、大学病院とはどのようなところなのかを、広く市民の皆様にご覧いただくために、阪大病院見学会を下記のとおり実施します。皆様が大学病院というものについて気付かない点、また、普段接することのできない場所など、新しい発見をするかもしれません。この機会に一度ご覧になってみませんか。ぜひお気軽にご参加ください。

- 対象者 一般市民(成人、個人)
 - 実施日時 10月1日(金)14時~16時30分
 - 募集人員 10人(先着順)
 - 申込方法 9月10日(金)必着で、はがき、FAXまたは電子メールで氏名、性別、年齢、郵便番号、住所、電話番号を記入のうえ申し込み願います。申し込みいただいた方に、後日決定通知にてお知らせします。
 - 送付先 〒565-0871 吹田市山田丘2-15
大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係
FAX 06(6879)5019
 - E-mail ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp
- お問い合わせは、広報評価係 06(6879)5020・5021

阪神タイガース 城島投手と マートン外野手

阪神タイガースの城島健司投手とマートン・マートン外野手が7月12日に小児医療センターを訪問しました。メジャーリーグでは、シーズン中でも選手が病院や学校を訪れることが普通に行われており、今回は球団を通じて両選手からの申し出によって子どもたちとのふれあいが実現しました。



小児医療センターを訪問 子どもたちとふれあ

両選手の訪問に子どもたちは大喜び。デイルームでのふれあいゲームの後、質問コーナーでは両選手との会話がはずみました。両選手はその後、病室から出ることができない子どもたちの病室を訪ね、一緒に写真を撮ってもらった子どもたちは笑顔でいっぱいでした。

城島選手は「子どもたちが元気になって甲子園に応援に来てくれればと思います。病気と闘う子どもたちから、今シーズンをがんばりぬく勇気をもらいました」と話していました。



増える慢性腎臓病



早期発見、治療を呼びかけ 腎臓内科

腎臓は身体の機能を整えるために重要な臓器だけに阪大病院の腎臓内科は各診療科に入院している患者さんの腎機能異常に対応し、糸球体腎炎はもちろん糖尿病や遺伝性疾患などによる腎機能異常の患者さんを診ています。入院患者さんは腎機能が低下していることが多く、造影剤や服用する薬によって急性の腎不全を起こすことがあります。腎臓内科では患者さんがそのような状態になったときに専門知識に基づき適切な対処をし、重症化しないようにしています。外来ではタンパク尿や血尿が出ているけれど、一般の診療所や病院ではわからない腎機能の異常に関して、腎臓の組織を採取して診断する腎生検II写真IIを行うなどして、確定診断をし、適切な治療をしています。特にほとんど症状が

なく、知らないうちに進行してしまう慢性腎臓病の人が増えており、地域の開業医などの医療機関には、尿検査や腎機能に異常があれば精密検査を受けるように啓発活動もしています。慢性腎臓病の患者数は約1300万人とも言われ、腎不全に陥るだけでなく、心血管合併症も起こしやすいので、早期に発見して治療することが大切なのです。

最も多い糸球体腎炎がIGA腎症です。症状が出にくく、健診の尿検査で微量な血尿を指摘され、精密検査をして偶然見つかることがあります。治療法は確立していませんが、阪大病院では扁桃摘出+ステロイドの点滴投与で寛解状態まで改善する症例が多くあります。この腎臓病も腎生検しないで見つからない

い病気ですので、血尿やタンパク尿があれば、かかりつけの医師の紹介で当科を受診してください。

年600人以上の重症者受け入れ



早期回復担う最後の砦に

集中治療部 阪大病院の集中治療部は年間600人以上の手術直後などの重症患者さんを受け入れて増えているうえに、阪大病院の特徴として移植患者さんもおられ、

重症患者さんも多いために、これからますます集中治療部の役割が重要になってきます。集中治療部は一般病棟では管理が難しい患者さんを受け入れ、一般病棟へ戻れるまで回復させるのが役割です。手術後の患者さんにはもちろん、病棟で急変して心肺停止状態などに

なり各診療科では対応できなくなつた患者さんも運ばれてきます。他の病院の集中治療部では各診療科の主治医が担当していることがほとんどですが、阪大病院の集中治療部の特徴は集中治療部の専門医が対応していることです。また、集中治療の専門看護師もいます。各診療科の主治医ですと、その医師の専門分野での対応はうまくできますが、重症化した患者さんの多様な急

性期の症状に対応するのが難しいことがありません。朝夕2回はカンファレンスを開いて、患者さんの状態を全員で的確に把握するようにしています。また、近隣に集中治療の専門医がいる施設がほとんどないために、阪大病院の集中治療部は、集中治療の教育、研修の場にもなっています。

消化器外科、泌尿器科 医師のバックアップ体制のもと看護専門外来の一つである「スキンケア外来」が今年4月に開設されました。創傷やストーマケアについての専門の教育を受けた皮膚・排泄ケア認定看護師が担当しており、現在はおもに人工肛門や人工膀胱など、いわゆるストーマを造設した患者さんへのケアを提供しています。

ストーマ造設の手術前には、患者さんの背景・生活・社会活動を考慮し、最適な位置にストーマを造設するために、医師、病棟看護師とともにストーマサイトマーカー(位置決め)を行います。手術後は、病棟看護師とともに患者さんが社会復帰を目指してストーマケアを自分で行えるようにお手伝いします。そして、退院後は、スキンケア外来で、腹壁の状態にあった器具の選択やストーマ合併症の予防と早期発見、ストーマ用品に関する情

がん患者さんらのストーマケア 専門の認定看護師が担当

スキンケア外来

報提供などを行っています。今後は、ストーマの造設について医師から説明を受けられた手術前の患者さんに対して、スキンケア外来でストーマ器具や手術後の日常生活についての情報を提供することで、患者さんの障害受容のお手伝いができるような関わりを持っていきたいと考えています。認定看護師になるための学習の中で学ぶ、「私たちの役目は、ストーマ造設によって生活が変わり、心理的、身体的に後退している患者さんが今以上に強く生きていただくための手助けをすることです」という、このことを常に忘れずにいたいと思います。

本院では、がんの治療でストーマを造設される患者さんがほとんどですが、ストーマケアへの不安とともにご自身の再発への不安な気持ちをお話しくださることもあります。患者さんにとってよりよいサポートをしていきたいと思っております。